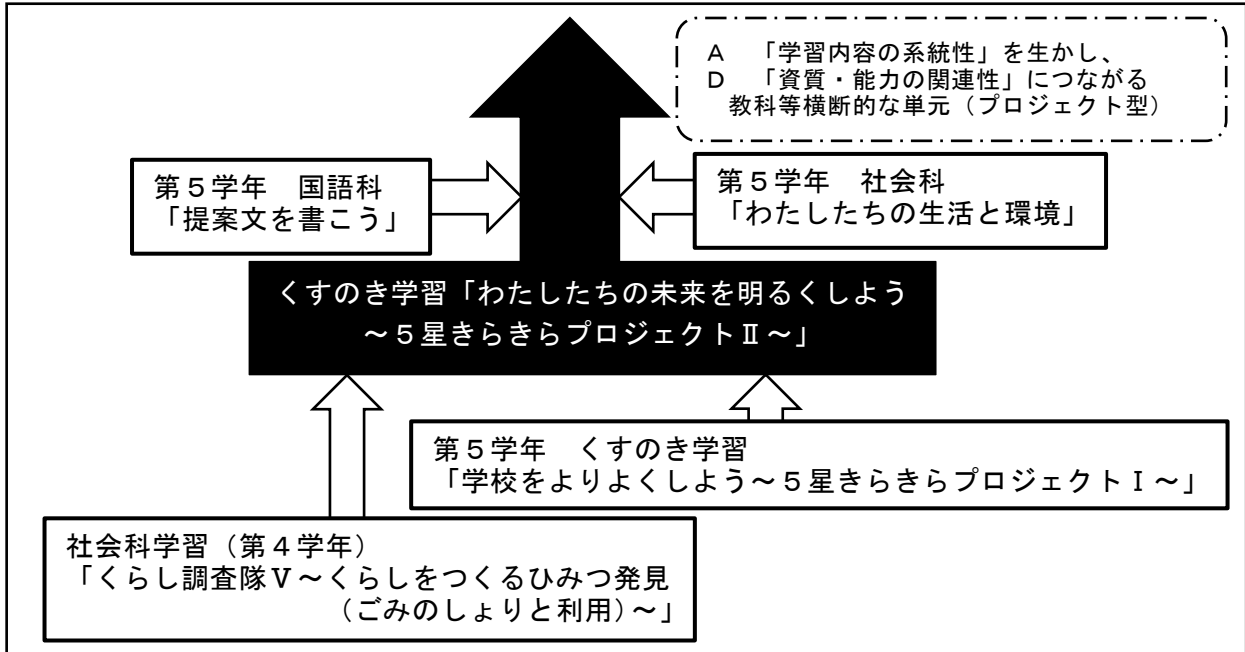


「わたしたちの未来を明るくしよう～5星きらきらプロジェクトⅡ～」
くすのき学習【地球】（+国語科、社会科）

【単元全体構想について】（学習内容の系統性、資質・能力の関連性を重視：プロジェクト型）



本単元は、A「学習内容の系統性」を生かし、D「資質・能力の関連性」につながるプロジェクト型の教科等横断的な単元である。

本単元では、子どもが「地球に生きる一員」としての自覚を持ち、これから自分にできることや自己の生き方を考えようとする姿勢を養うことを目指す。子どもと、学習材や他者、自分自身をつなぐために、探究的な学習を効果的に取り入れる。社会科の学習をもとにして、くすのき学習を中心に探究的な学習を進め、そこに国語科の学習を関連させる。環境問題について考える社会科の学習と系統付けることによって、課題解決に必要な情報を収集し、地球の一員としての自分の役割を考えることができる。また、国語科の、伝えたいことを明確に表す力、事実と結び付けて書く力などの資質・能力との関連を図る。

教科等横断的な単元の中では、探究的な学習が効果的である。探究のプロセスの中で教科等の学習が生かされることがあり、また、探究的な学習の成果が教科等の学習で生かされることもある。それらの場面で、子どもと学習材や他者、自分自身がつながり、探究の面白さを感じたり、学びが生かされる喜びを味わったりすることができ、そこに「深い学び」が表れるのではないかと考え、本単元を設定した。

【単元（くすのき学習）のねらい】

- ごみ問題について知り、ごみを減らしていくための方法や自分たちにできることが分かる。
- ごみを減らすためにできることについて調べ、集めた情報を整理し、相手意識を持ってまとめたり表現したりすることができる。
- 地球に生きる一員としての自覚を持ち、自分にできることを実践したり、今後の生活に生かそうとしたりする。

【単元の展開】(全20時間)

場面	子どもの課題意識と主な学習活動	評価の規準	時間
出会い	<p>「5星プロジェクト」の実践を振り返ろう。</p> <p>○ 前単元の活動から分かったこと、気付いたことを話し合う。</p> <p>ごみを減らすためにできることを実践したり、松山市に提案したりしよう！</p> <p>○ ごみを減らすために自分たちにできることを実践したり、様々なアイデアを出して市に提案したりする学習課題を立てる。</p>	<p>● これまでの学習を生かし、学習課題を立てている。</p>	3
追究	<p>ごみを減らすためにできることを考えよう。</p> <p>○ 自分たちにできることを調べて実践したり、市に提案したいことを考えたりする。</p> <p>プレゼンにまとめよう。</p> <p>○ 調べたり考えたりして分かったことを、グループでプレゼンにまとめる。</p> <p>プレゼン大会をしよう。</p> <p>○ 作ったプレゼンを発表し、考えを共有する。</p> <p>○ 発表をもとに、より魅力的で伝わりやすいプレゼンになるよう改善する。</p> <p>松山市に提案しよう。</p> <p>○ 提案するためのアイデアを話し合い、まとめる。</p>	<p>● 探究的な学習を楽しみ、主体的・協働的に取り組んでいる。</p> <p>● ごみを減らすためにできることについて考えたり、調べたりしている。</p> <p>● ごみを減らしていくための方法や自分たちにできることを理解している。</p> <p>● 集めた情報を整理し、相手意識を持ってまとめ、表現している。</p>	16
振り返り	<p>学習を振り返ろう。</p> <p>○ 学習を振り返り、これからの生活に生かしたいことを考える。</p>	<p>● ごみを減らすためにできることを実践し、今後の生活に生かそうとしている。</p>	1

【単元の実際】

(第1～3時)「出会い」

2学期に行った「学校をよりよくしよう～5星きらきらプロジェクト～」の活動を振り返った。観察池を掃除したこと、校内を掃除したこと、花を植えたことで、自分たちの設定した課題を解決することができた喜びや、周りの人の役に立つことができた＜自己効力感＞を感じている子どもが多かった。単元の振り返りの中に、「掃除をしてごみがとても多いことに気付いた」「減らさないと」といったごみについての感想や気付きが多くあったことで、前年度の社会科学学習が想起されてきた。どうしてごみを減らさないといけないのか問うと、「気持ちよく過ごせない」「埋め立て地を作るために木が伐採される」「資源を無駄にってしまう」「ごみをたくさん燃やすと地球温暖化につながる」などたくさんの理由が出てきた。「のんきに考えていたらめだ」「今からしないと何十年後に困る」との声から、次時でどうやってごみを減らしていくとよいのか考えていくことにした。

子どもたちの疑問や課題意識から、「調べてみたい」「やってみたい」「できそうだ」と思える内容設定ができるよう工夫した。また、自分の生活とのつながりに気付かせ、問題意識を持たせることで、探究の必要感を生み出せるようにした(資料1)。

⑤探してみればごみを減らさなければいけない理由が思っていたよりもたくさんあっておどろきました。中でも私は地球温暖化につながるから、という理由が大切だなと思います。なぜなら、一番自分たちに関わっているのではないかと思っただけです。

資料1 子どもの感想

そこから、提案したいことを選び、提案するための方法を考えた。探究的な学習の充実を図る手立ての一つとして、「まとめ・表現」の方法をじっくりと考える時間を保障した。

まず、「誰が伝えるのか」、「誰に伝えるのか」、「何を伝えるのか」を確認し、相手意識を持たせた。それからどんな提案方法があるか投げ掛けたところ、「手紙」「ポスター」「web 会議システム」「プレゼンテーション」など様々な方法が出てきた。自分の学習の成果、考えたこと、思いを伝えるためには、どの方法が効果的か、それぞれの長所と短所を考えてみた。「ポスターは色づけられるしグラフなどもかけるが、手がきで大変」「web 会議システムは直接対話できるが、1人ずつしか話せないし相手の都合がある」などいろいろな視点から考えることができた（資料3）。最終的に「プレゼンはきれいに書けるし編集もできる。何枚でも作れる。見返すこともできるし長所が一番多い。」という意見により、プレゼンでまとめ、提案することになった。

提案する方法を考えよう。 ☆だれに? → 市役所 清掃課の人
 ☆32人みんながする ☆何を伝える? → ごみを減らすアイデア

	手紙	電話	メール	ZODm	プレゼン	ポスター	新聞	写真	動画	パブリット
長所	見返せる 要する時間 少ない 手紙のデザイン がかわかる 都合	相手と直接 話ができる やすい	すぐわかる すぐ書く 何度も見れる 都合 データ保存	画面に 見せる 紙を見せ られる (カメラ)	伝わりやすい 見返せる きれいに 書ける 何枚でも作 れる	色づける つけられる グラフが 書ける	写真や図の 色を付ける 色を付ける 何回も読み 返せる	文字だけでなく 色を付ける 何回も読み 返せる	表情が わかる 見返せる 写真の 編集できる	色づける 見返せる 写真の グラフ
短所	とくに 時間がかかる デザインが 難しい 都合がある	あつから 見返せ ない 都合がある △返信 △返信	アイコン が取り にくい △返信	画面の 大きさ 準備が 大変 △返信	質問や 会話ができ ない △返信	文通が 大変 手がき 大変	質問が できない △返信	何を とるの かかわらない △返信	対話でき ない 長くなり 質問△ 見3分間△ 作る	質問 対話△

※組み合わせて
使う

資料3 提案方法の話合い

次時は、プレゼンの構成を話し合った。国語科で学習した「提案文を書こう」を想起し、同じ「提案する」学習であること、「1題名」「2提案すること」「3提案理由や自分の体験」「4今後の願い」の構成で提案文を書いたことを確かめた。それを生かし、今回も同じような構成にすると相手にも伝わりやすいのではないかという意見から、各班4人で内容を



写真2 プレゼンの下書き作成

を分担し、作成することにした。前時の自己評価カードの中に、「分かりやすいプレゼンを作りたい」という感想があり、それを紹介するとともに、どうすれば分かりやすくなるのか考えた。「写真を使う」「グラフを入れる」「文は簡潔に」ということを共有した。また、「5星としてのよいアイデアを厳選して提案するために、プレゼン大会を開き、いいなと思ったもの三つを選んで提案する」ということを伝えたところ、子どもたちは、「絶対ベスト3に入れるように頑張ろう!」「一番分かりやすいプレゼンにしよう!」と、意欲を高めた。三つを選ぶという条件を設定することで、目標を持ち、よりよいものにするにはどうすればいいか繰り返し考え、生かし、また協働しながら学ぶ態度を育てることができると考えた。

子どもたちは、自分の担当するプレゼンの内容を考え、下書きをし、タブレット端末を使って必要な情報を集め、また付け足し、書き直し、友達とアドバイスをし合いながら少しずつ作成を進めていった（写真2）。

そして、作成した下書きをもとに、タブレット端末のプレゼンテーションアプリを用いてプレゼン作りを行った（写真3）。伝えたいことを、写真、イラスト、グラフなどを使いながら構成や書き方を工夫し、分担して作成していった。活動の途中で、どうすれば伝わりやすいプレゼン



写真3 プレゼン作成

になるのかを再確認し、相手意識、目的意識を継続させた。また、作ったシートをグループの中で見合わせたり、アドバイスをしたりしながら協働的に作成できるようにした。提案内容に具体例を入れることで、さらに説得力が上がることを共有し、「場所」「数」「値段」「物」などの視点から内容を付け足していった。それにより、子どもたちはプレゼンがよりよくなったことを実感し、「提案できそうだ」「ベスト3に入れそう」という見通しを持つことができた(資料4)。国語科で身に付けた、伝えたいことを明確に表す力、事実と結び付けて書く力などの資質・能力とも関連付けることができたのではないかと考える。

⑤ 今日は先生にアドバイスをもらい具体例を付けることができました。前まではプレゼンベスト3に入れそうになかったし、文が分かりにくかったけど、具体例などを付けただけでベスト3に入れそうに分かりやすくなりました。

資料4 子どもの感想

作ったプレゼンを基に、発表の準備を行った。「呼び掛けを入れよう」「劇から始めてみよう」「クイズを付け足してもいいですか？」などと、提案するという目的や聞き手を意識した工夫が見られた。「はきはき話す」「大きな声で」「相手を見て」などこれまで学習した話し方を想起し、意識するとともに、「資料をしっかりと指し示す」「どんなグラフか詳しく説明する」「ジェスチャーを入れる」など、伝えたいことがよく伝わるような工夫も出てきた。しかし、実際に通してやってみると、課題がたくさん浮き彫りになってくる。「スムーズに進まない」「時間が短すぎた」「これではうまく伝わらない」など気付いた点を、互いにアドバイスし合い、改善しながら練習していった。終末には、授業の始めよりもいい発表ができるようになったことを実感している班が多く、次時でベスト3を目指し、一生懸命伝えようと意欲が高まった。

そして、グループごとにプレゼン大会を行った(写真4)。始めに、話し方、聞き方のポイントを確認、提案するための話し方を意識させた。プレゼン、発表の仕方のよかったところ、もう少しこうしたらいいと思うところなどについてメモを取りながら8班の発表を行った。発表後、うまくいったか聞いてみると、「すらすら話せなかった」「早口になってしまった」「うまく伝わらなかったかも」との言葉。話し方についての反省が多かったため、発表動画を一部見せると、「文字が小さいな」「文が長すぎた」「背景の色と文字が似ていて見づらい」など、プレゼンについての課題にも気づき、反省も多く出てきた。「もう少し修正したい」「もっとよく伝わるようにしたい」という声から、次時でプレゼンを改善していくことにした。



写真4 プレゼン大会

文字を少なく簡潔にする、文字を大きくする、写真をもっと入れるなどの視点でプレゼンを修正した結果、伝えたいことが分かりやすく、聞き手に伝わりやすい表現になったことを子どもたちは実感していた。また、話し方等も改善したところで2回目のプレゼン大会を行い、提案したい良いアイデアだと思うもの、プレゼンが分かりやすいもの、説得力のあるものなどからベスト3のグループを選出した。

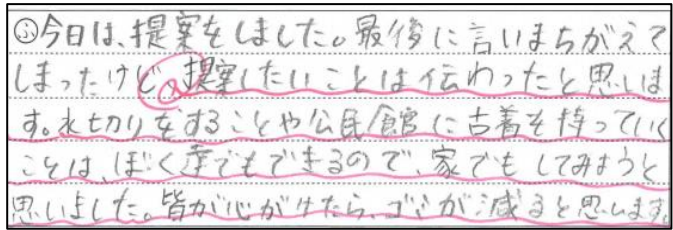
この3つのアイデアを「5年星組から提案したいこと」として、松山市役所清掃課の方に来ていただき、実際にプレゼンをして提案した(写真5)。子どもたちはプレゼンや発表の仕方を改善したことによって、相手にしっかりと伝えることができたことに喜びを感じていた。自分たちの言葉で直接提案す



写真5 清掃課の方に提案

る。

ることで、子どもと「他者」をつなぎ、より強い思いをもってごみ問題について考えることができたのではないだろうか。また、清掃課の方に質問したり感想をいただいたりすることによって、子どもは自分たちの学習を価値付け、「やってよかった」「自分たちの思いを松山市に広げることができた」「これからも自己の生活に生かしていこう」という自己効力感を実感することができたのではないかと考える（資料5）。



資料5 子どもの感想

（第20時）「振り返り」

子どもが探究的な学習を振り返り、自分自身の成長を実感し学びを自覚できるように、本単元の学習を、「①自分自身がどのように変わったか」「②どのような力が身に付いたか」「③この学習を今後どのように生かしていくか」という視点で振り返った。

- ①○ 生活をするときに、ごみについて意識するようになりました。これを使うよりこっちを使った方がごみが減るんじゃないのか、などをよく考えています。
 - 少しでもリサイクルできる商品を買うことを心がけたり、ティッシュを使わなくなったり、たくさんのごみを心がけるようになりました。
- ②○ 班のみんなと協力したり、自分から意見を言ったりすることが前よりできるようになりました。提案するためにいろいろなことを協力して活動できました。
 - うまくプレゼンテーションにまとめ、みんなにわかりやすく話す力が身に付きました。
 - 自分で考えて行動する力と、みんなのために役立つことを考える力が身に付いたと思います。
- ③○ 単元が終わってからもずっとごみを減らすための行動をしていきたいです。
 - 家や学校などの身近なところで、簡単なものでいいからできることを継続してみようと思いました。
 - 学習したことを生かして、ごみを減らす取り組みを家族に教えたいです。少しでも多くの人がごみを減らす取り組みをしていることを知ると広まっていくと思うからです。

この振り返りカードの工夫により、子どもたちは自己の学びや変容、成長をより深く認知することができた。また、課題を立てて実践する力、調べまとめる力、分かりやすく伝える力、協働的に学ぶ姿勢など身に付けた資質・能力は、他教科やこれからの自分の生き方で生かされる力であるということを知り、実感することができた。単元を通して、探究を楽しみ、これからの自己の生き方に生かそうとする姿が見られるようになってきた。

【単元の成果と課題及び最終年次の実施に向けて】

- 「ごみを減らすためのアイデアを松山市に提案する」という学習課題を設定することで、子どもと「学習材」をつなぎ、探究の意欲を高めるとともに、見通しを持ち、楽しんで探究的な学習に取り組むことができた。
- 実践したことや提案したことに対して、友達や家族、清掃課の方からの他者評価を取り入れることで、探究的・協働的な学習のよさや自己の学び、成長に気付かせることができた。
- タブレット端末を中心とした探究活動になっていた。インタビュー、聞き込み、現地調査などいろいろな視点、方法で探究活動に取り組めるような場の設定に努めたい。
- 提案のためのプレゼンを作成する際、書き方、作り方に意識が向いてしまった。自分の伝えたいことは何か、子どもたちが強い思いをもって提案できるよう内容面を重視していく。
- ☆ 子どもが自己の生き方について思いをもって探究できる単元構成を考えるとともに、様々な視点から課題に迫っていくことができるよう探究の質を高めていく。